

平成 30 年度

仙台市学校図書館運営モデル校 取組事例集



令和元年 8 月

仙台市教育委員会

はじめに

このリーフレットは、仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）に基づき、平成 29 年度から実施している「学校図書館運営モデル校事業」の平成 30 年度モデル校の取組をまとめたものです。

モデル校が実施した学校図書館運営に関する取組内容や取組の結果等を紹介していますので、各校における学校図書館運営を参考に、子どもの読書環境の充実につなげていただきたいと思います。

また、仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）についても抜粋して紹介していますので、取組を進めるにあたって、本市の子ども読書に関する目標や考えを今一度ご確認ください。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 目次 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

1	仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）について	
(1)	計画の策定	1
(2)	計画の目的と基本の方針	1
(3)	成果指標	2
(4)	重点的な取組	2
2	仙台市学校図書館運営モデル校事業	
(1)	計画における位置づけ・事業概要	3
(2)	平成 30 年度モデル校の取組事例紹介	
	・ 東仙台小学校	4
	・ 桜丘小学校	7
	・ 袋原小学校	10
	・ 川平小学校	13
	・ 南光台小学校	16
	・ 将監西小学校	19
	・ 館小学校	22
	・ 田子中学校	25
	・ 南光台東中学校	28
	・ 鶴谷特別支援学校	31
(3)	平成 30 年度モデル校事業の総括・今後	34

1 仙台市子ども読書活動推進計画(第三次)について

(1) 計画の策定

平成13年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき政府が策定している「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」を踏まえ、仙台市においても、平成16年から仙台市子ども読書活動推進計画の第一次計画、平成24年から第二次計画を策定して子どもの読書活動推進に取り組んできました。

現在は、平成29年1月に、第二次計画期間で見た課題などを踏まえ新たに策定した「仙台市子ども読書活動推進計画(第三次)」(以下「第三次計画」)に基づき、平成29年度から令和3年度(平成33年度)までの5年間の計画期間のなかで様々な取組を推進しています。

(2) 計画の目的と基本の方針

計画の目的

子どもが自ら読書に楽しみ、人生をより深くより豊かに生きる力を身に付けることができる読書環境をつくる

第三次計画では、子どもが読書に親しむだけでなく、自ら進んで楽しく読書することを通して、様々な知識や経験や考え方に触れ、身近なことから国際的・専門的なことまで幅広く多くのことを学び、人生をより深くより豊かに生きることができる力を身に付けられるよう、多様な読書活動ができる環境づくりを目指しています。

また、この目的を達成するために次の4つの基本の方針を掲げています。

基本の方針

(1) 子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもが読書の楽しさ、大切さを知ることができるよう、家庭、地域、学校等において子どもが読書に親しむ機会を幅広く提供していきます。また、子どもの発達段階に応じた読書支援を行い、子どもが読書を継続的に楽しむことのできる力を育てます。

(2) 子ども読書環境の整備・充実

子どもが自ら足を運び、本を手に取りやすい読書環境の整備・充実を図るとともに、子どもの読書活動を支える人材の育成や支援に取り組めます。

(3) 子ども読書に関する理解の促進

子どもの身近にいる大人に対し、読書の意義や大切さについて啓発活動を行うとともに、子どもだけでなく大人も読書に親しめる環境づくりを通じて、社会全体で子どもの読書活動を推進します。

(4) 家庭、地域、学校、図書館、ボランティアなどの連携・協力

子どもの読書活動を取り巻く様々な主体が相互に協力し、連携を図りながら計画を推進します。

(3) 成果指標

計画の推進状況把握のため、目的達成と関連性のある指標について成果指標を設定しています。

しかし、読書活動の数量的な広がりだけを求めるのではなく、子どもたちの感性を磨き、表現力を高め、創造力を育むことのできるような質の高い読書活動を広めていくことも必要です。

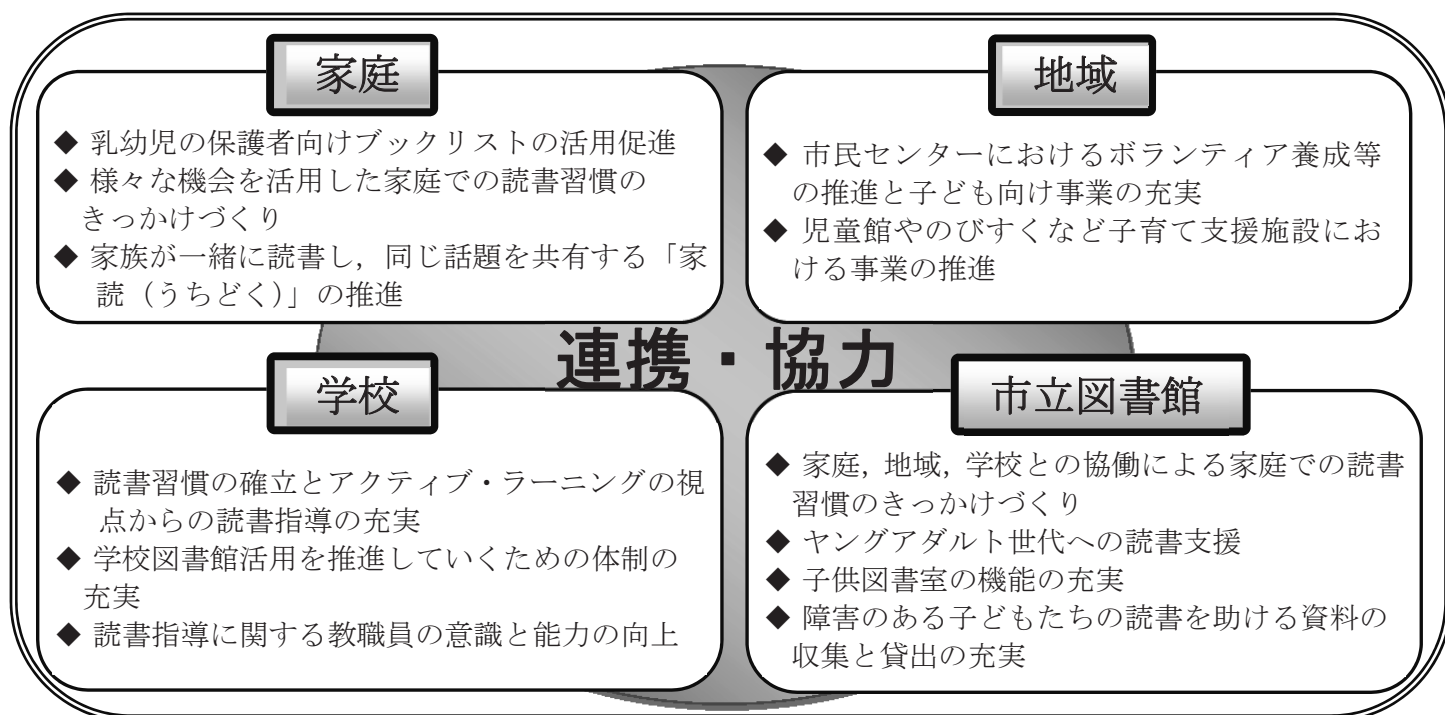
成果指標		第二次実績 (平成28年度)	第三次目標 (平成33年度)
家や図書館でふだん(月～金)1日に30分以上読書する児童・生徒の割合(教科書, 参考書, 漫画, 雑誌を除く。)	小6	39.3%	45.0%
	中3	30.8%	35.0%
昼休みや放課後, 学校が休みの日に, 学校図書館や地域の図書館へ月1回以上行く児童生徒の割合	小6	39.4%	45.0%
	中3	18.5%	25.0%
市立図書館児童書蔵書冊数 (15歳以下1人あたりの平均蔵書冊数)		5.2冊	5.5冊
市立図書館児童書貸出冊数 (15歳以下1人あたり年間平均貸出冊数)		9.0冊	10.5冊
市立小・中学校の学校図書館貸出冊数 (1人あたりの年間平均貸出冊数)	小	39.8冊	37冊(※1)
	中	6.3冊	9冊
市立図書館おはなし会参加人数		12,249名	12,000名
1か月に1冊も本を読まない子どもの数(不読率)	小	—	3%(※2)
	中	—	12%(※2)

※1 計画期間中, 毎年度37冊を目標とする。

※2 平成28年度子どもの読書活動に関するアンケート調査では, 仙台市の不読率は小学生5.9%, 中学生16.5%。国の第三次基本計画では, 計画5年目の平成29年度の指標として, 小学生3%以下, 中学生12%以下として設定している。

(4) 重点的な取組

計画の目的を達成するために, 4つの基本の方針のもと, 家庭・地域・学校・図書館という4つのフィールドにおける重点的な取組を掲げ, 計画の推進を図っています。



2 仙台市学校図書館運営モデル校事業

(1) 計画における位置づけ・事業概要

第三次計画では、学校における重点的な取組として「学校図書館活用を推進していくための体制の充実」を掲げており、その具体的取組の1つとして平成29年度より開始したのが「学校図書館運営モデル校事業」です。

当事業では、学校図書館を利用する児童生徒を増やし、子どもの読書に対する興味関心を喚起するための取組推進を目的として、学校図書館運営に関し特色のある取組をする学校を学校図書館運営モデル校に認定し、図書購入費などの重点配分を行います。

平成30年度は、学校図書館運営に関し先進的・特徴的な取組を実施している学校や今後の取組を期待する学校などをモデル校に認定し、図書購入費及び備品購入費の重点配分を行いました。

<平成30年度モデル校>

学校種別	学校名	重点配分額 (図書購入費)	重点配分額 (備品購入費)
小学校 (7校)	東仙台小学校	150千円/校	70千円/校
	桜丘小学校		
	袋原小学校		
	川平小学校		
	南光台小学校		
	将監西小学校		
	館小学校		
中学校 (2校)	田子中学校	150千円/校	70千円/校
	南光台東中学校		
特別支援学校 (1校)	鶴谷特別支援学校	150千円/校	70千円/校

(2) 平成30年度モデル校の取組事例紹介

各モデル校において、読書に関する課題や当事業実施に当たり定めた実施目標のもと、重点配分予算を活用した図書購入や備品等購入による読書環境整備、それらを含め図書館運営・利活用に関する様々な取組が行われました。

図書購入費は、各学年の国語の教科書で紹介されている図書や選書会を開催し児童生徒や保護者が選んだ図書の購入など、また備品購入費は、図書館内蔵書整理のための書棚購入の他、教室にも本を配架するための移動式書架や本紹介・展示用のボードなど、読書啓発・環境整備のための工夫に必要な物品購入などに活用していただいています。

東仙台小学校

【児童数：448人】

(H30. 5. 1現在)

◆ 事業実施目標 ◆

図書室の環境や役割，図書の整備を図ることによって，児童の読書意欲を喚起し読書量の増加を目指す

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 蔵書数は多いものの，古い本が多く児童の読書意欲が刺激され難い。
- 利用実態を考えると，図書室の広さ不足が否めない。

取組内容

1 図書室の機能や収納蔵書の分散化による図書室環境の改善

- 図工の授業で使える蔵書のうち古いものを中心に約 200 冊を図工室の書棚に移し，図工の授業で使いやすいようにした。
- 教科の調べ学習等で使える蔵書のうち古いものや貸出頻度が低いものを中心に，約 700 冊を図書室スペースに隣接する視聴覚室に移し，視聴覚室を図書による調べ学習教室としても使えるようにした（重点配分備品購入費により書棚を購入し，移動した蔵書を収納）。
- 図書室にあった児童対象でない蔵書約 60 冊を校長室や資料室に移した。

2 蔵書のリニューアル

- セット本（一括）：8セット
- セット本のうち特に傷みの激しいもの：5冊
- 貸出しが多く特に傷みの激しい本：15冊



【視聴覚室の室内風景（奥に書架を設置）】



【図書室（手前）と視聴覚室（突き当り）の位置】

取組による効果・目標の達成状況

1 図書室の機能や収納蔵書の分散化による図書室環境の改善

- 約 1,000 冊近くの蔵書を配置換えした結果図書室の書架にスペースができ、新たな蔵書の配架や、児童の目の届かない場所に配架していた本も目の届くところに配架できるようになった。
- 図書室にスペースができたことにより、ブックトーク実施後に紹介された本などおすすめ本を、表紙を前面にして紹介するコーナーを設置する、展示方法の工夫の幅が広がった。
- 貸出しの少ない蔵書の代わりに貸出しの多い蔵書を中心に図書室に収納することで、図書室機能の分散化を実現できた。



【図書室の最上段書棚の使用の仕方】



【ブックトーク後の本の紹介コーナー】

2 蔵書のリニューアル

- 汚損が目立っていたセット本が新しくなったことにより、児童の目を引き読書意欲の喚起につながった。
- 新しい本を手にするにより、児童の本の扱い方が丁寧になってきた。
- 図書室全体の雰囲気明るくきれいなものになった。

学校図書館における一人当たりの年間平均貸出冊数

		単位:冊					
年度 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
平成29年度	65.7	98.6	73.6	80.7	35.5	25.5	
平成30年度	63.9	63.6	67.4	76.9	44.1	34.4	

取組を振り返って

1 図書室の機能や収納蔵書の分散化による図書室環境の改善

- 主に中、高学年の調べ学習に適している蔵書を視聴覚室に移動させた。視聴覚室の授業での利用割当ては図書室よりも少ないため、効率的な学習環境を整えることができたと感じている。
- 図書室から移動した蔵書は種別が限定的で冊数も 1,000 冊弱であるため、調べ学習などの際に図書事務員の手を借りなくとも児童自身で選ぶことができていた。今後も視聴覚室兼調べ学習室的な活用を図っていききたい。そのためにも、視聴覚室に備え付ける本や書棚を増やしていきたいと考える。
- ブックトークを行った後は児童の本に対する興味関心が確実に高まっている。その要求に応えるためにも廊下に設置してある書棚の有効活用を図っていききたい。ブックトークで紹介される本の購入には PTA からの補助も活用して児童の興味関心が高まっているうちに購入し、読書推進につなげたい。

2 蔵書のリニューアル

- セット本を一括してリニューアルできたことは、目に見える図書室の環境改善となった。依然古い本が多いので、蔵書のリニューアルは今後も計画的に進めていく必要があると考える。
- 業間や昼休み時間に図書室を利用する児童は多い。本を好きな児童の割合は間違いなく高いと思われる。そのような児童の要望に応え、さらに本を好きな児童を育てるためにも、図書館教育の充実を図っていききたい。

◆ 注目 POINT ◆

- 蔵書を関連のある特別教室に配架し図書室機能を分散することで、調べ学習や授業での活用促進が図られている。また、蔵書を移動し図書室に空間を生み出したことで、図書室自体の読書環境の一層の整備・充実を可能にしている。
- 児童の興味が高まっている本を、表紙が見えるように廊下に展示しすぐ手に取れる環境をつくることで、本に触れる機会を効果的に創出している。

桜丘小学校

【児童数：463人】

(H30. 5. 1 現在)

※平成 29 年度から継続

◆ 事業実施目標 ◆

読書にふれ、心を豊かに育てよう

～学年必読書を含めた読書賞を受賞する児童の割合を 70%以上にする～

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 学校の長年の図書への取組により、図書室に足を運ぶ児童は増えているが、平成 29 年度は図書の貸出利用率が下がっている。
- 高学年では、年間の読書冊数が低下する。

取組内容

1 中学年向け図書の購入

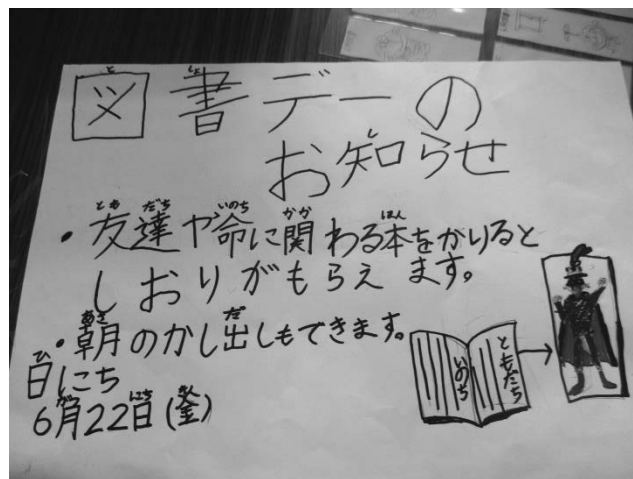
本校は平成 29 年度から学校図書館運営モデル校として事業を実施しており、平成 29 年度は高学年児童向けの図書を購入して図書の充実を図った。本が身近にあることで手に取りやすく、読むきっかけづくりになった。そのことより、平成 30 年度も本校の学校評価重点目標である「読書にふれ、心を豊かに育てよう ～学年必読書を含めた読書賞を受賞する児童の割合を 70%以上にする～」の達成のためにも計 49 冊の中学年向け図書を購入した。

(購入内容)

- ・心ときめくおどろきの宇宙探検・マジック少年マイク・えいごのじかん など

2 図書デー・図書まつりの開催

学校図書館の利用率向上のため、図書委員会の児童を中心に、毎月 10 日を「図書デー」とし、貸出時間の拡大や図書クイズ・抽選会などを実施した。「図書まつり」は、11 月下旬に一週間行った。



【友達・命がテーマの図書デーポスター】

3 読書賞・多読賞（学年必読書）

全校児童の 2 月末日までの学校図書館での個人貸出冊数、学級文庫の読了数、学校指定必読書の読了数など読書量を調査した。

※「読書賞」学年必読書 5 冊を含み 35 冊以上読了。

「多読賞」学年必読書 5 冊を含み 100 冊以上読了。

「学年必読書」その学年のうちに読んでほしい図書で、各学年の国語科教科書で紹介されている図書の中から教員が選書した図書の呼称。

4 図書ボランティア及び教職員による読み聞かせ

毎週木曜日に地域の方に図書ボランティアとして協力をいただき、読み聞かせを行っている。加えて、平成 29 年度に引き続き特別支援学級を含めた 16 学級で本校全教職員による読み聞かせを行った。図書祭り期間に抽選で担当を決め、昼の放送で発表をした。



【必読書カードは終了後、図書室内に掲示】



【図書委員会児童によるパネルシアター】

取組による効果・目標の達成状況

●学校評価重点目標の達成

「読書にふれ、心を豊かに育てよう ～学年必読書を含めた読書賞をとる児童の割合を 70%以上にする～」

平成 30 年度、学年必読書を含めた読書賞を受賞することができた児童の割合は全校で 81.2%、375 人であり、目標の 70%を達成することができた。昨年度の 42%から 39.2%上昇しており、非常に大きな伸びである。

要因としては、平成 29 年度の達成状況から、児童自身の中で、読書への意欲が高まったことにあると考える。また、校長が「本を読み、心を豊かにしてほしい」という話を朝会等で行ったり、学校便りで教職員による図書の紹介をしたことにより、学校全体で読書への働きかけが平成 29 年度より進められたことや、平成 29 年度に目標を達成できなかった要因の一つとして挙げていた必読書の冊数準備不足が解消されたことも考えられる。読みたい本がすぐに借りられることへの期待感やワクワク感が児童から感じられた。

●学校図書館利用率向上

本校の学校図書館における一人あたりの年間貸出冊数（全校児童平均）は、今年度 62 冊であり、昨年度より 5.7 冊増加している。これには、上述のように、教職員の読書活動への意識の変化、必読書の蔵書数が十分であることが考えられる。

また、仙台市いじめ防止キャンペーンとの関わりも大きいと考えられる。図書デーで、「命や友達がテーマ」の本を借りた児童を対象にしおりを渡すイベントを実施したところ、校内アンケートで、「本をたくさん読むと、心が豊かになりいじめもなくなる」と記述した児童がいた。このことより、児童の中で、読書をすることが心を豊かにするきっかけになると考えられていることが分かった。

学校図書館における一人当たりの年間平均貸出冊数

単位：冊

学年 年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成29年度	47	65	69	56	54	47
平成30年度	68	55	61	67	77	54

取組を振り返って

本校では、協働型学校評価重点目標を「読書にふれ、心を豊かに育てよう～学年必読書を含めた読書賞をとる児童の割合を70%以上にする～」に定めている。元々本を読むことが好きな児童が多く、雨の日の図書室の貸出カウンターには長蛇の列ができるほどである。

平成29年度に引き続き、平成30年度も学校図書館運営モデル校として児童の読書量の増加を目指した取組を行った。取組の結果、数値として大きな伸びが見られただけでなく、児童の学習や休み時間の様子からも「もっと本を読みたい」という意識が感じられた場面が多くあった。また、いじめに関する校内アンケートの自由記述に「本をたくさん読むことで心が豊かになる」という内容のことを書いた児童が数名いたことにはたいへん驚いた。

平成30年度の結果として児童の読書量は増加したが、次年度は読書の質について再考して校内読書活動の充実を図っていきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- 児童が読みたい本をすぐ手に取れるよう蔵書の充実を図り、また全教職員を巻き込み学校全体で読書啓発に取り組むことで、児童の読書への興味関心を効果的に引き出している。
- テーマについて本を通して感じたり考えることを促す取組により、読書によって得られる様々な心・力に児童が主体的に気づききっかけを創出している。
- 年度を越えての継続した取組実施により、児童の読書意欲向上・読書習慣定着が一層図られている。

◆ 事業実施目標 ◆

様々な分野の本に興味関心を持ち、学年相応の本に親しむことができる

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 本の劣化が進んでいる。
- 学年が上がるにつれ年間貸出冊数が低下し、活字本を読みたがらない児童がいる。

取組内容

1 児童・保護者・地域の方による選書会の実施

全校児童による選書の週を設定し、選書会をもとに図書購入を行った。また、授業参観の日に、保護者・地域の方にも選書に参加してもらい、児童に読ませたい本の希望をとった。



【選書会①】



【選書会②】

2 読書通帳への取組

平成30年度から、本のタイトルや読んだ日付、一言感想、おもしろさを星の数で表したりする読書通帳に全校児童で取り組んだ。

3 ノーメディアデーの日の「家読」の推進

今年度から第2・第4水曜日にノーメディアデーを設定した。ノーメディアデーの日に「家読」を推奨し、家庭での読書活動を学校便りなどで家庭に呼びかけた。

4 PTAの方による読み聞かせの実施

平成30年度から、低学年・特別支援学級にPTAの方による読み聞かせを実施した。

5 公共図書館の活用

仙台市図書館の学校連携事業による小1パック（1年生向け国語読み物パッケージ）の貸出を年

4回、授業用貸出（防災教育やキャリア教育等のための資料）を年6回受けた。ブックトークボランティア「ランプ」によるブックトークも実施し、ブックトークで紹介された本の貸出も受けた。

取組による効果・目標の達成状況

1 児童・保護者・地域の方による選書会の実施

児童も選書を行うことで、本に関心を持つきっかけとなった。自分が選んだ本が図書室に置かれることで、喜んで図書室に行く児童の様子が見られた。また、保護者や地域の方にも選書を行ってもらうことで、家庭での読書活動への関心を高められたと考える。

2 読書通帳への取組

読書通帳に読んだ本を20冊書き込むと、次の読書通帳に繰り越されるようにした。図書室で読書をする学習時間だけではなく、朝読書の時間や空き時間にも読書通帳に喜んで書き込んでいた。全ての欄が埋まり次の通帳に繰り越されることで、読書に対するモチベーションが高まり、結果的に読書量の増加につながったと考えられる。

3 ノーメディアデーの日の「家読」の推進

第2・第4水曜日をノーメディアデーの日に設定し、テレビ・ゲームなどを控える代わりに「家読」を推奨した。「家読」を行った児童は読書通帳に書き込み、次の日に担任に提出するようにした。今後も継続することで、読書の習慣化につなげていきたい。

4 PTAの方による読み聞かせの実施

PTAの方による読み聞かせを月曜日の朝の読書タイムに実施した。読み聞かせボランティアグループを立ち上げた年でもあったため、対象学年を低学年と特別支援学級とした。読み聞かせを楽しみにしている児童が多く、真剣に聞き入っていた。11月には仙台市図書館の方を講師としてお招きし、読み聞かせの研修会を実施した。来年度は実施回数を増やし、読み聞かせの対象学年を低学年だけではなく中学年へも広げていく予定である。



【読み聞かせボランティア】

5 公共図書館の活用

公共図書館を活用することで、学校図書館の本（年間貸出冊数に反映）の他にも、更に多くの本を手にする機会が増えた。公共図書館から借りた本は廊下に配架したり、授業の中で活用したりするなど、本を気軽に読める環境作りも心掛けた。普段、あまり図書室に足を運ばない児童が、廊下に並べてある本を手にする姿も多く見られた。

学校図書館における一人当たりの年間平均貸出冊数

単位:冊

年度 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成29年度	35	36	35	26	18	17
平成30年度	36	50	40	29	23	11

取組を振り返って

今年度は、昨年度の1人当たりの年間貸出冊数をほとんどの学年で上回る結果となった。これは、担任による読書指導、家庭での読書活動への関心の高まり、選書会の実施、読み聞かせボランティアによる支援、公共図書館の活用により、日常的に本と触れ合ったり、読書をしたる環境が整ったことの成果と考える。

しかし、6年生の貸出冊数が落ちていたことは今後の課題である。来年度は、今年度の取り組みを継続しながら、各学年で、気軽に本を手にとることのできる環境作りを工夫していきたい。



【図書館まつり】

◆ 注目 POINT ◆

- 読書通帳により読書の記録を目に見える形で一元管理することで、読書に対する児童の意欲を高めている。また家庭での読書も記録させることにより、保護者が児童の読書に関心を持つきっかけにつなげている。
- 本のパック貸出や読み聞かせ研修会など、仙台市図書館の事業を有効活用することで児童がより多くの本に触れる機会をつくっている。

川平小学校

【児童数：503人】

(H30. 5. 1 現在)

◆ 事業実施目標 ◆

協働型学校評価目標（読書や、外遊び・運動を通じて「ノーメディアデー」を作る。）推進のための具体的方策として、図書館を通じた実践活動に取り組むと共に、家庭と連携した読書活動の充実を図ることで、児童の年間貸出冊数が、全学年とも市の目標（37冊）を上回るようにする

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 長年の読書への取組により図書室に足を運ぶ児童は増えているが、平成29年度は図書の貸出利用率が下がっている。
- 高学年では年間の読書冊数が低下する。

取組内容

1 来館したくなるような図書館運営

(1) 児童参加型の選書会

児童による選書会を実施し、選書会をもとに図書購入を行った。学校の教職員やPTA、地域の読み聞かせボランティアにも参加してもらった。

(2) 図書委員会による新しい本の紹介

図書委員会の児童がお勧めの本を校内放送で紹介したり、紹介カードを書いて展示したりした。

(3) 読書マラソンの実施

読書マラソンカードを作成し、児童に読んだ本を記録させた。1枚ごとに校長先生がメッセージを書くことで読書への意欲を喚起した。



【図書委員会お勧めの本】



【ブックトーク講座】

2 図書館活用型の授業作り，学級作り

(1) 外部講師によるブックトーク講座の実施

学級担任が児童に本を勧めることができるように外部講師によるブックトーク講座を行った。児童に読ませたい本のリストも作成してもらい、学級経営にも生かした。

(2) 廊下学年文庫の設置（学年ころころ文庫）

国語の並行読書や発展読書用の本をすぐに手に取れるように、教室前廊下に学年文庫を設置した。



【学年ころころ文庫】

	おんどく	うちどく	じかんわり	まいにち	えんぴつ	かみ
おんがく	かんじの はなし					
おんけん	かいがら					
おんり	かいがら					
おんじつ	かいがら					
おんどう	かいがら					

【しっかりカレンダー】

3 「家読」の推進

(1) 保護者への啓発

児童が毎日提出する学習カード（しっかりカレンダー）に家読の欄を設け家庭への意識付けを図った。また、お便り等にお勧めの本を掲載した。

取組による効果・目標の達成状況

1 来館したくなるような図書館運営

(1) 児童参加型の選書会

自分が選んだ本が図書館に入るのを心待ちにする児童の姿が見られた。読書意欲の向上や、様々なジャンルの本を手にするきっかけにつながった。

(2) 図書委員会による本の紹介

図書委員が紹介した本はすぐに貸出状態になった。児童が本を選ぶときの指針の一つになった。

(3) 読書マラソンの実施

普段本を手にとらない児童が本を読むきっかけになった。

2 図書館活用型の授業づくり，学級づくり

(1) 外部講師によるブックトーク講座の実施

本を紹介したり読み聞かせをしたりする学級担任が増えた。担任が紹介した本に興味を持つ児童の姿が見られた。

(2) 廊下学年文庫の設置（学年ころころ文庫）

教室のすぐそばに本を置くことで、隙間の時間に本を手にする児童が見受けられるようになった。並行読書をスムーズに行うことができた。

3 「家読」の推進

(1) 保護者への啓発

学校で紹介した本を参考に「家読」に取り組む姿が見られた。しっかりカレンダーに家読の欄を設けることで保護者への意識付けができた。公共の図書館を利用するようになったという声もあった。

学校図書館における一人当たりの年間平均貸出冊数

単位：冊

年度 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成29年度	32.9	29.9	60.5	68.2	44.1	14.6
平成30年度	28.6	34	58.4	44	45.3	37

取組を振り返って

- 全学年とも図書貸出数が37冊を上回るという目標は、低学年では達成できなかった。低学年は低学年図書室のみを利用しており、貸出時間も限られているためと思われる。ただ、廊下学年文庫の利用は多く、読書量としては年間37冊を超えている。3年生以上は、すべての学年が目標を達成した。今後は、低学年の図書室の利用の仕方を考えたい。
- 保護者が「家読」へ意識が向いてきたところなので、しっかりカレンダーに読書欄を設けたり、お勧めの本をお便りで紹介したりするなど、引き続き啓発に取り組んでいきたい。
- 廊下に設置した学年文庫の利用は学年によって差があったので、常に学年の必要に応じた本を入れ替えできるよう工夫する必要があると感じた。

◆ 注目 POINT ◆

- 選書会や同年代の図書委員からのおすすめ本紹介などにより、児童が図書室・本を意識するきっかけを創出している。
- ブックトーク講座の実施や、学級での読書啓発を行いやすい環境整備を進めることにより、教職員の読書活動に対する関心を高めることで、より児童への働きかけを促進している。
- 読書状況（家庭読書）を保護者の目に見える形で記録する工夫により、保護者への読書に対する意識向上を図っている。

南光台小学校

【児童数：703人】

(H30. 5. 1 現在)

◆ 事業実施目標 ◆

学校・家庭・地域において、数多くの本との出会いの場を設定し、児童の読書領域を拡充するとともに、三者の連携・協力のもと、よりよい読書習慣の形成を図る

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 読書量の多い児童と極端に少ない児童がおり、二極化が見られる。幼年期における読書習慣形成が課題である。
- 平成30年度には校内LANの更新と機器の整備が行われるため、学校図書館の機能を活かして情報活用能力の育成を図る。

取組内容

1 低・中・高学年ごとの「おすすめの本」100選の選定

児童の読書領域を広げ、各発達段階に合った良書を選ぶ参考になるように必読書を100冊選定し、学年部ごとのワゴン（重点配分備品購入費にて購入）に配架するとともに、一覧表を掲示したり各家庭にリストを配付したりした。選定は、各学年の国語教科書で紹介されている本や全国図書館協議会のリスト、20年以上読み継がれている本、100万部以上売れている絵本などを参考に校内の図書部員の教員で実施した。

2 「移動本屋さん」の実施

書店に500冊の児童書を持ってきてもらい校内に10日間展示。全校児童と読み聞かせボランティア、保護者対象に選書会を行い、それを元に図書を購入した。



【低・中・高学年の100選の本】



【移動本屋さん】

3 図書委員会活動の充実

全校児童対象に TV 放送，低学年対象に各教室で紙芝居の読み聞かせや，季節に合った掲示物作成を年間を通して行った。「図書館まつり」では，児童や教員による本の紹介，図書クイズや手作りのしおりプレゼントなどを行った。

4 保護者への啓発・図書館の開放

年間 10 回の「図書館だより」の発行で，図書館における児童の活動の様子や，新しく入った本の紹介をした。長期休業中の図書館の開放の期間を延ばしたり，保護者にも本の貸出をすることについて周知を図ったりした。



【読み聞かせボランティア】



【先生方から本の紹介】

取組による効果・目標の達成状況

1 低・中・高学年ごとの「おすすめの本」100 選の選定

本年度は各学年部「100 選」の選定や環境作りを中心に取り組み，「100 選」の本を配架したワゴンの近くには分かりやすくリストも掲示するなど，児童の興味関心を引く工夫を行った。今後は「100 選」の本の貸出記録カードを作成し，より進んで読もうとする意欲を喚起したい。

2 「移動本屋さん」の実施

平成 29 度から実施しており，児童の多くは選書会を楽しみにしている。自分たちが選んだ本が図書館に並ぶことで，図書館に行ってみようという意識向上につながった。平成 30 年度は保護者や読み聞かせボランティアの方にも初めて参加いただいたが，興味を持って参加していた。来年度はさらに参加者を増やしていきたい。

3 図書委員会活動の充実

図書館まつりの期間は普段に比べ貸出冊数が約 1.5 倍になり，盛況であった。児童や教員が紹介した本を展示したところ，進んで手に取る様子がうかがえた。身近な人から紹介された本を読んでもみようという意欲の創出につながった。

4 保護者への啓発・図書館の開放

長期休業中の開放日を10日から18日に増やしたことで、児童の利用数が昨年より1.7倍に増加した。夏休みのプール開放に来た帰りに図書館に寄る児童が多かった。保護者も親子で図書館を訪れ利用するようになったが、まだ人数が少ないので、来年度もさらに保護者に向けた周知を図っていききたい。家読については、家庭学習カードに「家読」の欄を設けて実施した際に記録するなど、担任が家読の様子をチェックできるようにし、さらに読書活動を推進していききたい。

学校図書館における一人当たりの年間平均貸出冊数

単位:冊

年度 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成29年度	33.6	38.5	29.4	33	21	15.7
平成30年度	40	37	46	41	47	20

取組を振り返って

- H30年度の学校図書館の児童の年間貸出総数（～2/28まで）は26,481冊で、昨年度の20,071冊より31%伸びた。各学年の貸出数も増えている。図書館以外の本も含め一月に11冊以上本を読む児童も222名（全校の31%）おり、これはH29の130名より70%の伸びである。
- 選書会に参加したり、本を紹介し合ったり、紙芝居や読み聞かせボランティアの読み聞かせを聞くなど、本に触れる機会が増え、「自分たちの図書館」という意識を持つ児童が多くなったと考えられる。
- 子どもの読書推進は、子どもが親しみを持つ図書館の環境整備や児童が本に興味を持つような様々な仕掛けをするとともに教職員や保護者の意識を高めていくことが大切である。今後も様々な場面で児童と本をつなぐ取組を引き続き実践していききたい。

◆ 注目 POINT ◆

- 読書段階ごとに独自のおすすめ本を選定し、コーナーを設けて配架することで、児童の関心を引き出し良書に触れる機会を創出している。
- 図書委員会による読書に関する多彩な企画の実施により、より多くの児童の関心を高め、読書冊数の増加につなげている。
- 教職員や保護者への働きかけを意識した取組みを併せて行うことにより、全体で児童の読書習慣の確立を目指している。

将監西小学校

【児童数：201人】

(H30. 5. 1 現在)

◆ 事業実施目標 ◆

- ・様々な種類の本を読み、読書の習慣を付けるとともに読書の幅を広げる
- ・調べ学習などで本を活用し、学習を深めることができる

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 朝の読書タイム設定や読み聞かせボランティアの活用により、児童が文学に親しむ機会が多い。
- 児童は業間や昼休みに積極的に図書室を利用している。
- 読む本の種類が偏っていること、調べ学習用の本の活用が少ないことが課題である。

取組内容

1 児童による選書会の実施

児童による選書会を行い、選書会の結果をもとに図書購入した。

2 テーマに合わせた本の展示

月ごとにテーマを決めテーマに合った本を図書委員の児童が選書し、展示コーナーを設置した。コーナーには表紙が見えるように本を配架したり、本のポップを作成して並べるなど、本に注目が集まるよう工夫した。



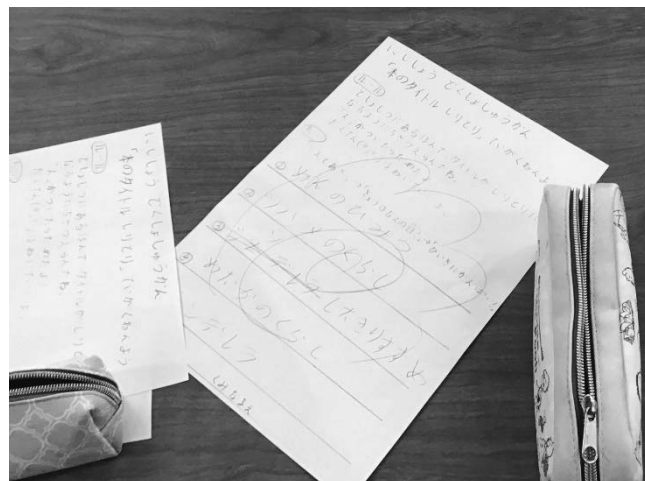
【月ごとのテーマコーナー】

3 様々な本に触れる活動の実施

本のタイトルしりとり、本についてのクイズなど、様々な本を手にする働きかけを行った。本のタイトルしりとりでは「しりとりシート」を作って配布し、本についてのクイズは本の内容が読みたくなるようなクイズを工夫して作成・実施した。



【しりとりの様子】



【本のタイトルしりとり】

読書週間には本の表紙のイラストコンテスト、図書委員による紙芝居の読み聞かせの実施、2冊券の配布など、図書室に足を運ぶきっかけとなるような取組を行った。また多読賞を設け、読書冊数が多い児童に授与した。

その他、学級文庫に加え休み時間や授業で活用できるよう移動書架（重点配分備品購入費にて購入）に本を配架し教室前に設置したり、木曜日には読み聞かせボランティアの協力を得て読み聞かせを実施し、本に触れる機会の一層の創出を図った。



【本の表紙イラスト大会】

4 調べ学習に活用できる本の選書の実施

図書室での調べ学習に役立つ本の選書を行った。調べ学習で活用したい本などについて教職員へアンケートを実施し、結果から本を選んだり、実際に教員が選書会場に行き必要な本を選んだ。

取組による効果・目標の達成状況

1 児童による選書会の実施

選書実施の前に、選書する本を図書室に広げ、自由閲覧の期間を設けることで図書室に足を運ぶ働きかけを行った。選書に関わったことで児童の図書に対する関心が高まり、図書室を利用する児童が増えた。

2 本への関心を持たせる活動の実施

図書委員の児童とともに月ごとのテーマを決め、テーマに合った本を選書し、選書した本をイーゼルに立てかけたりテーブルに平置きするなど、表紙が見えるように配架した。表紙が見えることで興味が湧き、貸出冊数増加につながった。

3 様々な本に触れる活動の実施

様々な本に触れる機会を増やすためにゲーム感覚で取り組める活動を行ったことで、普段読まないようなジャンルの本を読むことにつながった。また多読賞の授与は、多くの本を読もうとする児童の育成につながった。

木曜日の図書ボランティアによる読み聞かせでは、読んだ本が図書室にあることを児童に伝え、図書室に向かうことにつながるよう言葉掛けをしてもらったことで、児童が本に興味を持ち、図書室へ足を運ぶにきっかけにつながった。

4 調べ学習に活用できる本の選書の実施

アンケート結果をもとに、主に生活、社会、総合的な学習の時間に活用できる本を購入した。今年度は購入までとなり、効果的な活用については今後の課題となった。

学校図書館における一人当たりの年間平均貸出冊数

単位:冊

年度 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成29年度	49	33	51	27	58	47
平成30年度	38	61	60	50	31	84

取組を振り返って

今年度、児童の一人あたりの貸出冊数は51冊で、仙台市子ども読書活動推進計画で目標とされている一人あたり37冊の目標を上回る結果になった。選書活動で図書室の本を自分で選ぶこと、様々な本を手に取りたくなるような仕掛け、テーマにあった本の紹介など、本に興味を持ち図書室に足を運びたくなるような工夫の成果ではないかと考える。また、読み聞かせボランティアによる読み聞かせは児童の本に対する関心を高め、本を読みたいと思う機会になり、読書習慣を身に付けることにつながると考える。

調べ学習に活用できる本の選書は行ったが、年度内は効果的な活用までは至らなかった。児童が図書室に足を運び、自分の調べたいことを探せる環境整備や教員の働きかけの工夫などを、今後も検討・実践していきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- タイトルしりとりやクイズなど、児童がゲーム感覚で楽しめる取組を実施することにより、児童がジャンルの偏りなく様々な本を読むことにつながっている。
- 移動書架の設置や読み聞かせの実施など、図書室以外で本に触れる機会を増やすとともに、選書会やイベントにより図書室に親しむ機会を創出することで、読書量の増加や図書室活用の促進につながっている。

館小学校

【児童数：398人】

(H30. 5. 1 現在)

◆ 事業実施目標 ◆

児童が読書に親しむ環境を整備することにより、読書習慣の定着を図り、一人年間50冊読書することを目指す

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 図書室は北校舎の3階にあり、1年生・4年生・6年生の教室は北校舎、2年生・3年生・5年生は南校舎に分かれている。南校舎と図書室との距離があるため、図書室との距離が貸出冊数減少の要因となっている。

取組内容

1 読書環境の整備

(1) ベンチスペースや学級文庫ラックの活用
各階のベンチスペースに図書コーナーを設置し、図書を児童の身近な場所に置いた。また、学級文庫は4台の可動式ラックを学年部（4学級）で定期的にローテーションして運用した。

(2) 貸出・返却方法の見直し

返却は昇降口と図書室前に設置したボックスに入れるだけの方法に変更し、図書館では貸出手続きのみとした。また、貸出は通常一人2冊とした。

(3) 「家読」の推進

「読書通帳」を活用し、学校以外での読書記録をつけることで「家読」の推進を図った。また、長期休業日には、泉図書館と連携を図り図書日よりなどで関連図書の紹介をした。



【ベンチスペースを利用】

2 図書館運営への参加

(1) 「移動本屋さん」の実施

児童と教職員が学校図書館で購入する図書の選書に参加する機会をつくった。また、期間中に授業公開日を設定し、保護者や読み聞かせボランティアや地域の関係機関の方々にも参加してもらった。



【移動本屋さん】

(2) 土曜図書室開放委員会との連携

土曜図書室開放委員会との共催で、「石井桃子ミニ展示会」を実施した。

(3) 読み聞かせボランティアとの連携

読み聞かせボランティアの意見を取り入れて選定した図書を、朝の読み聞かせで活用し、図書館にコーナーを作った。

3 NIE と関連した読書活動

(1) 新聞記事と図書を関連させた展示コーナー

図書室前のオープンスペースに、新聞記事とそれに関連した図書の展示コーナーを作り、児童の興味関心に対応した。また、発展的に学びたい児童のために、案内マークを掲示して館内で探し易いよう工夫した。



【家読 読書通帳】



【図書展示】

取組による効果・目標の達成状況

1 読書環境の整備

- ベンチスペースに図書コーナーを設置したことで、手軽に本を手にする児童が増えた。学習や活動で活用した図書を置くなど、担任の意識も向上している。学級文庫のローテーションは、児童の興味を引くものとなっていた。昇降口にも返却ボックスを置いたことで、貸出冊数が大幅に増えるとともに、図書館では貸出業務のみを行うこととなり混雑が軽減された。通常一人2冊までの貸出としたことも有効であった。
- 「読書通帳」の活用は、「家読」の意欲向上と保護者への啓発に効果があった。特に夏季休業中の「家読」の推進につながった。

2 図書館運営への参加

- たくさんの本に触れることができ、自分の意見が反映された喜びを感じることができる選書会は、図書と学校図書館に関心を持つよいきっかけとなっていた。また、保護者や読み聞かせボランティア、地域関係機関の方々に参加してもらったことは、様々な立場から児童図書や学校図書館についての意見をいただく機会となった。学校評価委員会での話題にもなった。
- 読み聞かせボランティア推薦による図書は、朝の読み聞かせ後に借りる児童も多く、児童と図書館をつなぐ役割を果たしていた。

3 NIE と関連した読書活動

- 新聞記事と関連させた図書の展示は、記事を読み、興味関心を持った図書をすぐに手に取ることができ、読んで考えたり深めたりするという主体的な学びにつながるものとなった。

学校図書館における一人当たりの年間平均貸出冊数

単位：冊

学年 年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成29年度	46	49	25	20	28	25
平成30年度	73.9	65.1	35.5	82.1	29	28.4

取組を振り返って

年間 50 冊以上読書する児童の割合は 58% と、平成 29 年度に比べ 16% 増となった。家読の意識も向上し、休日や長期休業に読書をする児童が増え始めている。

返却ボックス方式をとったことで、校舎配置や時間の問題を解消することができた。〈返せないから借りることができなかつた〉児童が減り、いつでも借りられる状況となった。また、2冊貸出したことが、児童の読書意欲の喚起につながった。今後は、公共図書館同様に5冊までの貸出を検討していきたい。

児童は、毎年図書選定を楽しみにしており、様々な本との出会いを楽しんでいる。その思いを持続させる環境作りと場の設定に努める必要があると考える。平成 30 年度、学年による差が顕著であったことから、担当や担任の働きかけが児童の興味関心や読書意欲に大きく影響していると感じている。今後は OJT の推進を図り、教職員の意識と読書指導のスキルを高め、児童と本をつなぐ活動の充実を図っていきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- 図書室の本を借りやすく、返しやすくする工夫により、児童がより気軽に図書室を活用できるようにし、読書量増加につなげている。
- 読書状況を一元管理する読書通帳を活用することで、児童の読書意欲を引き出すとともに、家庭での読書も記録させることで、保護者への読書啓発にも活用している。
- 新聞記事と関連本を併せて紹介することで、児童が関心を高め、より深く発展的に学ぶことを効果的に促している。

田子中学校

【生徒数：355人】

(H30. 5. 1 現在)

◆ 事業実施目標 ◆

生徒の読書の幅を広げ、心豊かに自ら学び、深く考える生徒の育成

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 読書への意欲が高い生徒が多い。
- 図書展示スペースが限られている。
- 蔵書のジャンルが文学に偏っている。

取組内容

1 生徒による選書会の実施

生徒による選書会を実施し、選書会の結果をもとに図書購入を行った。



【生徒による選書会】

2 全校での朝読書の実施

8時25分から15分間の朝読書時間を設定し、全校で静かに行った。

3 多読賞の設定

学年ごとに、年間100冊以上読んだ生徒に対して「多読賞」の授与を行った。

4 月ごとのテーマ展示

月ごとに様々な特集を組んで本の展示・紹介を行った。

5 国語科による図書室の利用指導

生徒の図書室活用を促すため、4月に全クラスで図書室の利用指導を行った。

6 1・2年生対象ブックトーク

「将来について考える本」というテーマで、講師を招き、学年ごとにブックトークを行った。



【朝読書】

取組による効果・目標の達成状況

1 生徒による選書会の実施

選書会に参加し図書館運営に関わったことで、生徒の本への関心が高まり、読書に対する意識向上につながった。

2 全校での朝読書の実施

時間を設けて全校で読書をすることで、朝を落ち着いて過ごすことができるようになった。

3 多読賞の設定

14名の生徒に「多読賞」を授与した。平成28年度から平成29年度は貸出冊数が約2倍となったが、平成29年度から平成30年度は2倍以上に増加し、さらに読書量の増加が見られた。

4 月ごとのテーマ展示

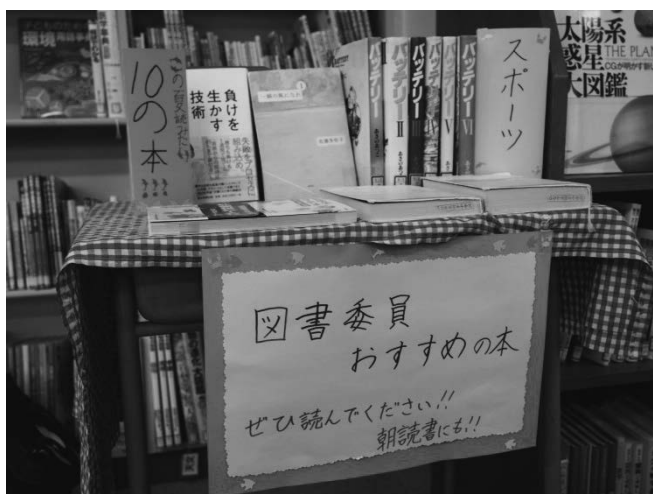
普段自分が選ぶ本とは違った種類の本に触れる機会が増えることにより、生徒の興味関心が広がった。

5 国語科による図書室の利用指導

図書室を身近に感じるきっかけとなり、昼休みに図書室を訪れる生徒が増えた。

6 1・2年生対象ブックトークの実施

「将来について考える本」をテーマにしたブックトークを行うことにより、本を通して将来についても具体的に考えられるようになった。



【テーマ展示】



【ブックトーク】

学校図書館における一人当たりの年間平均貸出冊数

単位：冊

年度 \ 学年	1年	2年	3年
平成29年度	16	8	7
平成30年度	10	21	12

取組を振り返って

読書を通して本に対する生徒自身の興味関心が高まるとともに、級友の手に取る本にも興味を持ったことで生徒の読む本のジャンルにも広がりが見られるようになった。また、図書室の月ごとのテーマ展示にも多くの生徒が手を伸ばし、読書への意欲向上、読書量の増加につながった。図書委員も積極的に活動を行い、図書館便りと合わせてPOPを作成したり、図書委員のテーマ展示を行ったりすることで読書の幅も広がった。

さらに、ブックトークは多くの生徒が本の世界に引き込まれ、「本から得られる体験も大事にしたい」という感想や「自分の人生がよりよいものになるように決断したい」という感想が寄せられ、それぞれの本に感銘を受けた生徒が多かった。今後も他のテーマで継続して行いたい。

今回の取組で、読書に向かう生徒の姿の変容が見られ、大きな成果が得られたと感じた。今後も同様の取組を行いつつ、個々の生徒に応じたアプローチを考えていきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- 選書会やテーマ展示などの読書推進活動を積極的に行うことにより、図書室の本や読書への関心を高め、多ジャンルの図書を読む機会を増やすことで、読書意欲の向上を図っている。
- テーマによるブックトークを行うことで、普段自分が手に取らないような本にも関心を持ち、生徒が自分の生き方について考え、将来を見詰め直す機会につなげている。
- 朝読書の時間を設け、一斉に読書に取り組むことにより、読書習慣の確立を図ると共に、生徒が落ち着いて一日をスタートさせることにもつなげている。

南光台東中学校

【生徒数：200人】

(H30. 5. 1 現在)

◆ 事業実施目標 ◆

生徒が利用しやすい図書室の環境づくりを目指し、全校年間貸出数平均値を現在の4冊から6冊に上げる

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 図書館利用者数は、特に昼休みに各学年とも多く、新書を始め様々な分野の本を手に入れている。しかし、その本を借りて続きを読む生徒は少ない。本には興味があるが、借りてまで読まないという課題がある。

取組内容

1 テーマを設定し、関連した本を期間限定で展示、貸出

「アートを楽しもう」というテーマで、美術関係のユニークな本やイラストの描き方の本などを展示。また、職場体験活動時期に合わせて、いわゆる「なるにはブック」や、あまり聞き慣れない職業なども本で紹介した。その他「お菓子の世界」に入り込んだような「お菓子」に関係のある話題の本などを特集して紹介した。



【テーマ展示① 「アートを楽しもう」】



【テーマ展示② 「お菓子の世界」】

2 「校長先生のおすすめの本」コーナーの設置

毎月校長先生が、毎月2～3冊の本を読み、その本を紹介した。テーマは偏らず、あらゆるジャンルの本、中学生に是非読んで欲しい本を特に心に残った文章と校長先生のメッセージを添えて玄関と図書館内に展示した。また、本の表紙もカラーコピーし、目に付く展示を心掛けた(次頁写真)。

3 図書だよりの発行

図書委員と図書事務員とで作成し、3回発行した。またHPにも掲載した。

4 保護者対象選書会の実施

1回のみで開催となったが、様々なジャンルの本を業者から借用し、図書館内で保護者対象の選書会を実施した。参加者から好評だった本を購入した。

取組による効果・目標の達成状況

1 テーマを設定し、関連した本を期間限定で展示、貸出

学校行事等に関連させた「テーマ展示」コーナーの設置により、いつもとは違った視点で本を手取る機会となった。「テーマ展示」から、特に好評だったテーマの「部活動」を、常設として新コーナーに配置した。貸出はしなくても、図書館内で本を手取る生徒が増えた。

2 「校長先生のおすすめの本」コーナーの設置

校長先生が推薦した本がきっかけで、生徒が読書感想文を書いたり、逆に自分が読んで面白かった本を校長先生に紹介する生徒がいたり、生徒と職員のつながりもできた。なお、校長先生は全校集会や職員会議のときに、お薦めの1冊を生徒、教職員に紹介する試みもしている。

3 図書だよりの発行

図書委員としてのやりがいにつながった。生徒による読み聞かせやブックトークは実施できなかった。しかし、ブックトークは、令和元年度8月に全学年で実施予定である。

4 保護者対象選書会の実施

参加した保護者からは非常に好評で、子供との会話につながるとの意見があった。保護者への貸出も今後検討し、広報していきたい。学校図書館のイメージが明るく、開放的との意見もいただいた。



【「校長先生のおすすめの本」コーナー 左：本表紙】

●目標の達成状況

学年が上がるにつれて、貸出数は激減してくる傾向は変わらない。しかし、授業で図書館を利用する回数が増え、昼休みに図書館を利用する生徒の数は増えた。また新しい本の紹介を頻繁に行っていたため、生徒の本への興味は低くはないと思える。開館時には多くの生徒が図書館で本を手取る姿を見るようになった。

貸出数平均値を6冊にまで上げることはできなかったが、平成30年度は5.1冊であったので、少しずつ上がってはきている。



【「保護者対象選書会」の様子】

学校図書館における一人当たりの年間平均貸出冊数

単位:冊

年度 \ 学年	1年	2年	3年
平成29年度	6.4	4.1	1.5
平成30年度	5.4	9	1

取組を振り返って

- 特設の「テーマ展示」は、生徒の興味を引く取組になった。運営の面では、学校行事の何にテーマを設定するか、書物をそろえられるかなど課題もあるが、継続していきたい。
- 「校長先生のおすすめの本」コーナーは、本校玄関で一番目を引く「学校の顔」になっている。顔が分かる人からの生の言葉には力がある。また全校集会の場でも校長先生から「心を奮い立たせる言葉」として1冊の本を紹介しており、生徒だけでなく、教職員も心引かれるものになっている。本との出会いには、様々な形があるのだと勉強になった。
- 図書だよりは、学校HP等に掲載することで、広く本に触れるきっかけを生徒・保護者・地域へ発信することができたので、今後も継続していきたい。
- 平成30年度新たに「保護者選書会」を実施し、生徒・教職員・保護者という3者からの選書の取組を実現できたことは、読書への関心拡大にもつながり意義あるものになった。保護者への貸出については、来年度に結論を出したい。

最後に、自然に本に向かうことを待っていても変化は望めない。上記のような様々な取組を今後も積極的に仕掛け、生徒に提示することが有益であることが明らかになりつつある。まだまだ実践できることがあるので、継続して実施していきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- テーマ展示やおすすめ本紹介など、内容・場所について生徒の目を引くような工夫を凝らすことにより、本や読書に対する関心を高め図書室利用を促している。
- 図書だよりのHP掲載や保護者対象の選書会の実施など、保護者への働きかけも積極的に実施し、学校図書館への関心を高めることで、子どもの読書に対する関心も引き出している。
- 読書啓発の取組が、結果として生徒と教職員、生徒と保護者のコミュニケーション創出につながっている。

鶴谷特別 支援学校

【児童生徒数：151人】

(H30. 5. 1 現在)

◆ 事業実施目標 ◆

- ・豊かな情操を育てるための、読書習慣を身につけさせることを目指す
- ・利用しやすい図書室の運営と蔵書の充実を目指す

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 図書館自体が平成24年度に開設された新しい図書館であるため、児童生徒数に対し蔵書が圧倒的に不足している。児童生徒が求める本の購入、蔵書の充実を図ることが課題である。

取組内容

1 購入希望図書のアンケートを実施（6月に実施）

教員に児童・生徒用図書の購入希望調査アンケートを実施し、児童生徒に読ませたいと思う本の選定・購入の資料とした。

2 アンケート回収と分析、選書（7～8月に実施）

教員への購入希望図書アンケートをもとに図書情報教育部員9名で選書・購入を行った。

3 購入本の展示紹介（9月・11月・2月に実施）

2週間の期間を設け、職員室前廊下に新しく購入した本を展示し紹介した。

4 購入本の貸出開始（9月・11月・2月に実施）

購入本を職員室前廊下に展示した後、図書館に本を移動し貸出した（図書館の本の貸出は、学級内への貸出としている）。



【大型絵本の読み聞かせ（小学部）】



【大型絵本の読み聞かせ（中学部）】

5 「立ち読み処」の充実（通年）

廊下2カ所設置している「立ち読み処」に、季節ごとに季節感あふれる図書を展示した。

6 新しく購入した本の紹介コーナーの設置（1月・3月に実施）

「立ち読み処」の隣に、新しく購入した本の中から図書情報部員の教員の推薦本を、掲示物と一緒に展示し児童生徒に向けて紹介した。

7 高等部への移動書架の設置と管理（2月に実施）

高等部棟は図書室から離れていることもあり、読書習慣が少しでも身に付くよう、「学研まんがでよくわかるシリーズ」を中心に、高等部の生徒が興味を持つような本を選び、移動書架に配架して高等部廊下に設置した。

取組による効果・目標の達成状況

1 購入希望図書のアンケートを実施

例年の図書購入費に加え、平成30年度は更にモデル校事業による図書費の重点配分があることを学校全体に報告したところ、多くの教員より購入希望のアンケート回答があり、小学部から高等部まで幅広い意見を集約することができた。

2 アンケート回収と分析と選書

教員より回答のあった購入希望図書は、絶版の図書を除き全て注文することができ、その他にも、図書情報教育部員9名で選書した本を購入することができた（重点配当分で48冊購入）。

3 購入本の展示紹介

新しい図書が搬入された9月、11月、2月に、職員室前廊下に展示コーナーを設け新規購入図書の紹介・披露を行ったところ、休憩時間に立ち止まり本を手にする児童生徒、教員の姿が多く見られ、早く貸出して欲しいという要望まで出されるようになった。

4 購入本の貸出開始（9月・11月・2月に実施）

紹介・披露終了後に、本を図書館に移動し貸出を開始したところ、新規購入の図書を中心に、多くの本が各学級に貸出される状況になった。

5 「立ち読み処」の充実

校舎2カ所に「立ち読み処」というコーナーを設け、その季節に合わせた図書の紹介を行うことで、コーナーに立ち止まり、本を手にする児童生徒が増え、読書への関心が高まっている様子がうかがえた。



【立ち読み処（小学部昇降口前）】

6 おすすめ図書の紹介コーナーの設置

新規に購入した本の中から、図書情報教育部の教員が一人一冊選んで、写真入りで本の面白いポイントを紹介する掲示物を作成し掲示した。教室を移動する時に、掲示物を読む生徒もおり、読書や図書への関心を高めることができた。

7 高等部への移動書架の設置と管理

図書室から離れている高等部への配慮と、本を身近に感じて欲しいということをねらい高等部の廊下に移動書架を設置したところ、昼休みなどの自由な時間を利用して移動書架より本を選択し、読書に励む生徒の姿が見られるようになり、読書への興味関心を高めることにつながった。

学校図書館における学年（教室）への年間平均貸出冊数

単位：冊

学年 年度	小学部						中学部			高等部		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3
平成29年度	10	12	10	15	12	11	13	15	14	10	12	14
平成30年度	20	45	25	3	8	24	46	19	3	26	29	6

取組を振り返って

職員よりアンケートを取り、可能な限り希望に沿って図書を購入するようにした。また、高等部の生徒からも希望があり購入した。そのためか、新刊披露の段階で、児童生徒や教員から「いつ貸出を開始するのか。」との質問を受けることが多く、学年（小学部は学級）への年間貸出冊数も、平成29年度に比べ8学年が増加した。このモデル校事業で、多くの図書を購入することができ、本校の図書室の蔵書の充実が図られ、児童生徒の読書への興味関心の向上につながったと考える。

◆ 注目 POINT ◆

- 図書室の新刊紹介を職員室前で実施することにより、児童生徒はもちろん教職員に対する読書活動啓も効率的・効果的に行っている。結果として、授業で本を活用する機会の増加につながっている。
- 立ち読みができるスペースや、図書室から遠い教室付近に移動書架を設置することで、気軽に本を手にとれる環境を整備し、児童生徒の読書への関心を高めている。

(3) 平成 30 年度モデル校事業の総括・今後

各モデル校においては、その学校の状況に応じた子どもの読書や学校図書館活用に関する課題を見出し、解決に向けた取組を行っていただきました。

小学校では、児童が学校図書館を意識し、主体的に本を読むことにつながるための取組や、教職員や保護者を巻き込んだ読書啓発活動の積極的な実施が多く見られました。読書の成果を目に見える形で積み上げる記録簿の工夫や、多くのジャンルの本を読むことを促す仕掛けづくりから、児童の読書意欲を高めている様子がうかがえます。また、教室近くや特別教室などへの本の配架、図書館の本を借り、返しやすくするなど、学校の読書環境が整備され、児童が本に触れる機会を一層高めているものと見受けられます。

中学校では、小学校以上に読書離れが進む傾向を踏まえ、いかに生徒から本への関心を引き出すか、本を手にする機会を創出するかについて、様々な取組がありました。生徒の余暇時間が少ないことから、本を活用した進路指導の実施、学校生活で目に留まりやすい掲示など、効率的に働きかける取組がされています。

特別支援学校では、教員に向けた図書室や本に関する情報発信を積極的に行うことで、授業での本や図書館活用を促進し、児童が本に触れる機会を創出しています。児童生徒にとっても、本がより身近になり、本への興味関心が向上し、主体的に読書をする意欲を育むことにつながっています。

対象となったモデル校では、児童生徒の読書活動推進はもちろん、教職員や保護者など周囲の人の読書に対する意識向上も図り、子どもの読書活動を支える環境を整える取組を実施していました。児童生徒の読書活動促進、読書習慣の確立に加え、児童自身が考える力や心の豊かさなど、本を読むことにより得られる効果に気づいている様子がうかがわれることは、大きな成果です。

読書習慣の確立や、そのための読書環境整備には、長期的、継続的な取組が必要です。各モデル校には、今回の事業の実績を踏まえて今後の目標や実施内容を検討し、引き続き取組を推進していただきたいと考えております。また、平成 30 年度の実施内容や結果、新たな課題などを他校と積極的に共有することで、学校図書館の更なる効果的活用や子どもの読書活動推進に努めていただきたいと存じます。

結びに、真摯に活動に取り組まれた平成 30 年度学校図書館運営モデル校の先生方及び図書事務の方、並びに事業実施へのご支援とご協力をいただきました関係各位に心から感謝申し上げます。

平成 30 年度
**仙台市学校図書館運営モデル校
取組事例集**

令和元年 8 月発行

仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課
〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目 5 番 12 号

TEL : 022-214-8886 FAX : 022-268-4822

Email : kyo019310@city.sendai.jp